

鉈屋町 町内会だより

鈴江家の淡路人形

岩手県立博物館で行われていた「個性派役者勢揃い〜岩手の操り人形〜」に行つてまいりました。鉈屋町の鈴江家に伝わっていた淡路人形や関連書類が展示されているのに加え、11月3日は人形の発見当時、博物館の学芸員で現在は啄木ソムリエとして活躍される山本玲子さんの講演も開催されました。



不定期発行
発行者
鉈屋町町内会
編集 / 文責 / 撮影
桂 汎用工房
脇田桂一郎
印刷
小松総合印刷
株式会社

以前鉈屋町にお住まいだった鈴江茂さんも、この日滋賀から来盛されており、ご挨拶をすることができました。

当時、淡路人形浄瑠璃興行の北限は福島県と考えられていたため、この人形はそれを覆す発見なのだそうです。



左から2番目が鈴江茂さん
左端が山本玲子さん

展示された人形は三百年近く前の可能性もあるとのことでしたが、実に凛としていて年月を感じさせない美しさでした。

わかプロが鉈屋町の 活躍で受賞

鉈屋町では「盛岡町家deづくり市でどらんご」でお馴染みの、もりおかワカものプロジェクトさんが、盛岡市より「もりおか暮らし物語賞」を受賞されました。



この受賞について、地域の皆様に向けて、もりおかワカものプロジェクトさんからコメントを頂いております。

盛岡ブランド表彰「もりおか暮らし物語賞」受賞の御礼

この度の受賞は、日頃より私たちの活動にご協力いただいた地域のみなさんのおかげだと思っております。いつもありがとうございます。

現在、「てどらんご」が開催できない状況ですが、今後も地域の魅力を発信できるような活動を続けていきますので、どうぞご指導の程よろしくお願いいたします。

一同



11月15日資源回収

天気はいいのですが、少し寒い。カメラを持つ手が冷たいです。



前回ダンボールがそんなにたくさん集まるのか、と思いましたが、よくお話を聞くと店舗や業者の方も協力してくださっているとのこと。それならこの量も納得です。



いつもながら回収はすばやく行われます。撮影のため、回収地点を行ったり来たりしている間に終わってしまうことも。

次回の資源回収は来年の1月10日になります。皆様よろしくお願いたします。

ボンネットバスが鉾屋町へ

もりおか八幡界隈まちづくりの会の主催で「盛岡まちなかぐるっとバス」が11月14日から運行されました。



今年で52年目を迎えるボンネットバス、現在でも冬季に松川温泉への路線で現役です。



鉾屋町ではもりおか町家物語館「風の広場」に停車し、撮影会も行われました。



残念ながら道路規制のため、鉾屋町の通りを走ったのは初日の午前中のみとなりました。



町家でそば打ち体験

農事組合法人わんだい高原農場さんの主催で、11月21、22日に旧藤村家でそば打ちの体験会が開かれました。

わかりやすい説明と適切な指導をしてくださるのは、わんだい高原農場の小笠原壽男さん(写真左側)と佐藤良明さん(写真中央)。



そば打ちをこれだけ間近で見学するのは初めてなので、言葉で説明するより、つい写真が多くなってしまいます。

よく捏ねて空気を抜き、



打ち粉をまぶして、手で平らにしていきます。



更に麺棒で伸ばして、



適度な薄さになったものを折りたたんで、麺きり包丁で刻んでいきます。



見た目にはこれが一番難しそうに見えますが、上手な方が切ると実に綺麗に仕上がります。

出来上がった麺は各自お持ち帰りとなり、先生の打ったそばが振る舞われます。

特製たれ、そばの実を炊き込んだそばの実ご飯に、いぶりがっこ、そしてデザートに吉田真理子さんの新作そばパンケーキ付き。



私もいただきましたが、非常にコシが強く、喉越しのよいそばでした。



十文字稲荷社例大祭

十文字稲荷社 秋祭典の末九日祭が11月14日に行われました。伊藤郁郎さんが祝詞を上げます。



神事後、当番の方々に昔話が盛り上がりました。

最近では行われなくなつたようですが、以前は例大祭に合わせて多くのお祭りが行われたそうです。お神輿、さんさ踊り、なんでも10円で買える「十円市」など。

懐かしの話を聞きに、またお邪魔しようかと思えます。

秋の収穫祭

盛岡町家三岳亭で、盛岡まち並み塾が主催する「町家で芋煮会」が11月7日行われました。



いずみやの皆さんが腕をふるいます。



あさ開さんの日本酒試飲コーナー、用意されたのは純米大辛口「水神」。



これが実に美味しい。お燗も良いのですが、常温でのきりつとした飲み口も好みでした。

食も進み、気がついたら肝心の芋煮の写真を撮り忘れていました。申し訳ございません。

天気もよく、紅葉も映えて、おだやかな昼の一時でした。



編集後記

11月半ばくらいから何人かの方に「読みました」と声をかけていただきました。嬉しいと同時に責任も感じます。

今回難しいと思ったのは、よく撮れている写真を選んでも、文章と合わせてみると、どうもしっくりこない場合があることでした。1枚の写真としての出来より、雰囲気とか周囲の状況がわかるものが、掲載に適していることも度々です。

あと取材時に「怪しいおじさん」と思われないように、こんな腕章を作ってみました。

今後もしろくお願いいたします。(桂)

